

製品の安定供給

安定生産への取り組み

お客さまへ必要な時に必要な量を供給できるよう、原材料の安定確保、計画的な生産設備の整備・更新により安定生産に取り組んでいます。また、営業部門と生産部門が協調して、フレキシブルで無駄のない生産計画を策定し、適切な在庫管理を行い、製品の安定供給に努めています。

また、日本製紙グループでは、平時において安定生産に取り組むとともに、災害等の非常時においても被害を最小限にとどめ、速やかに復旧できる体制を構築するため、リスクマネジメント委員会(→P.25)で事業別の事業継続計画の策定を推進しています。

事例 事業継続マネジメントシステム (日本製紙(株)紙パック営業本部)

日本製紙(株)紙パック営業本部は、事業継続のためのガイドラインを制定してマネジメントシステムを確立し、緊急時の生産に備えています。緊急時の優先品目の選定や主要原材料の複数メーカーからの購入を進めています。また、生産拠点を複数有することで、災害発生時のリスクを分散しています。

事例 地震等災害対策要綱(新聞用紙)

新聞という公共性の高い情報媒体に用いられる新聞用紙は安定供給が強く求められており、日本製紙連合会新聞用紙委員会では非常事態に備え地震等災害対策要綱を定めています。大規模災害などによって生産設備が被害を受けたり、通信・交通網の途絶・遮断などが発生した場合、この要綱に従って円滑な供給を維持します。

操業の安定化

紙パルプ産業は代表的な装置産業で、設備の安定稼働が安定供給や品質に直接関わります。そのため、機械装置の振動や温度をチェックして異常予兆を監視することが、メンテナンスを行う上で重要です。

事例 e-無線巡回[®]の開発・導入

日本製紙(株)と日本製紙ユニテック(株)は、無線センサーで機械装置の異常予兆を常時監視するシステム「e-無線巡回[®]」を開発・運用しています。

従来の設備異常予兆は、人が生産現場を巡回して異常を発見する方法が中心で、巡回者の経験や勘という数値化できない技術・技能に大きく依存してきました。「e-無線巡回[®]」では稼働中の機械装置の「温度・振動加速度」データをIoTによって蓄積し、数値データ

で傾向監視ができます。異常傾向が見られた設備に適切に対処することで設備トラブルを未然に防ぎ、操業の安定化に寄与します。(→P.44)

日本製紙(株)の国内全工場への導入およびグループ外への販売も積極的に展開を進めている他、国内販売先の要望を受け、2019年度よりタイでの販売も開始しています。

➔ 「e-無線巡回[®]」特設ページ(販売会社:桜井(株)) <http://www.sakurai.co.jp/landing/e-musen/index.html>